

平成 26 年度 関東甲信越診療放射線技師学術大会 参加報告

公益社団法人埼玉県診療放射線技師会
常務理事 芦葉 弘志

平成 26 年 6 月 28 日・29 日、つくば国際会議場（エポカルつくば）にて関東甲信越診療放射線技師学術大会が開催された。大会テーマは「放射線技術の進化・新化・深化」であり、放射線医学の目覚ましい進化を学ぶ大会との意味合いがある。当日は、関東甲信越の診療放射線技師や業者を含め、400 名を超える参加があった。つくばという学術研究機関の中心都市、交通の便に優れた立地も参加人数に影響していると思われる。

朝 10 時のセッションで「診療放射線技師の読影実態把握～MMG 読影について～」という演題を発表した。読影補助に関しては、医政局発の発表が行われてから各施設でさまざま取り組んでおり、中小規模、大規模施設の特色をいかした、読影補助業務ができるよう色々工夫している事がセッション全体を通してうかがえた。

埼玉県診療放射線技師会の企画でリーディング（読影体験）コーナーが設けられ、胸部 XP、MMG、MDL、MRI、CT の各モダリティで読影テストが受けられるという画期的なものであった。期間中は絶え間なく読影テストの参加者がおり、関心の高さがうかがえた。読影体験者数は、胸部 XP：7 人、MMG：12 人、MDL：13 人、MRI：11 人、CT：23 人、のべ 66 人（参加人数：40 人）であった。公益社団法人日本診療放射線技師会の中澤靖夫会長にも読影体験をしていただき、情報交換会の席上「大変有意義な体験をさせていただいた、ぜひ数多くの会員に体験していただきたい」との感想をいただいた。

学術大会は 2 日目も活気あふれる大会となり、成功裏に幕を閉じた。



読影体験中